

住友ゴムグループは、「長期ビジョン」で掲げる長期持続的な成長と価値創造を実現していくためには、経済的価値のみならず社会的価値向上への取り組みが不可欠だと考え、CSRの推進に取り組んでいます。

CSRの推進・活性化に向けて

住友ゴムグループは、2008年2月、CSR経営のさらなる強化を図るため、「CSR活動基本理念」を策定しました。この基本理念では、「地球環境や社会をGENKIにする活動」を通じて、持続可能な社会の実現に貢献し、社会から信用される企業グループを目指します」という理念のもと、「Green:緑化」「Ecology:事業活動の環境負荷低減」「Next:次世代型技術・製品の開発」「Kindness:人にやさし

い諸施策」「Integrity:ステークホルダーへの誠実さ」から成るCSR活動の五つの行動指針を明確にしています。

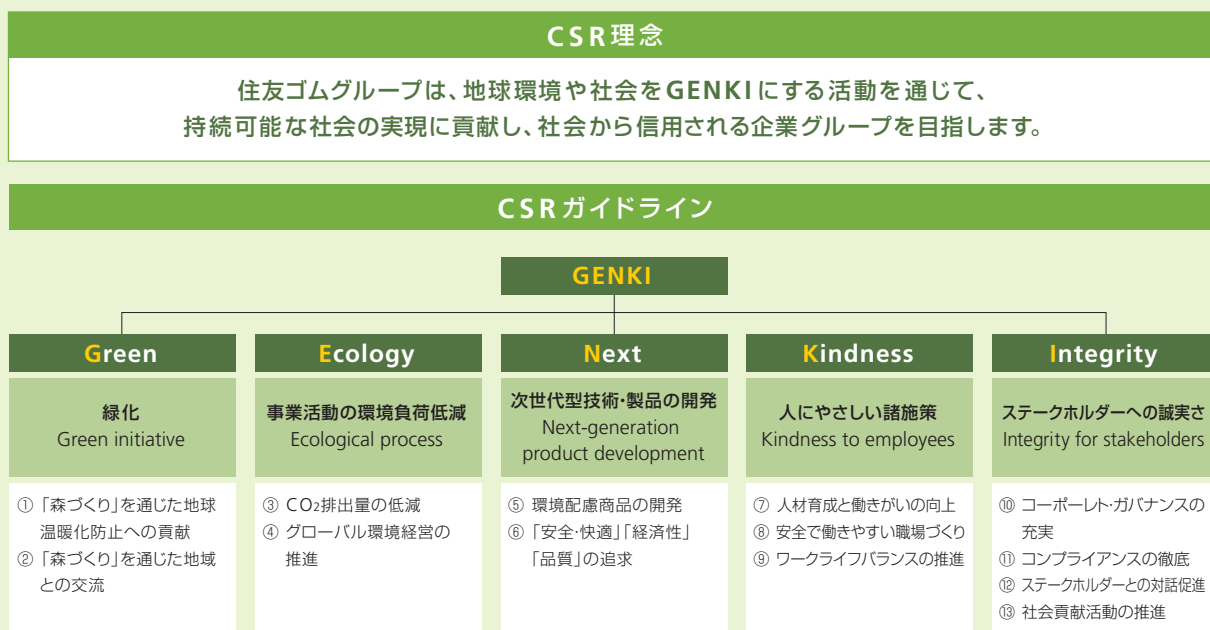
また、2008年7月には専任組織としてCSR推進室を設置し、CSRマネジメント体制の整備、従業員に対する啓蒙活動、社外への情報発信等、グループのCSR活動の活性化に取り組んでいます。

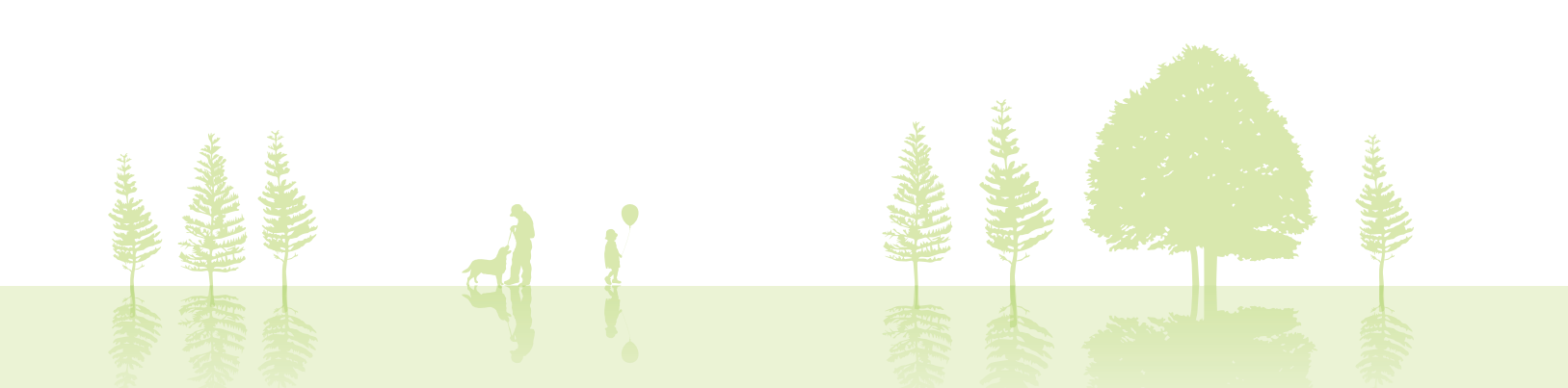
CSR活動を推進するにあたっては社内外のステークホルダーの方々とのコミュニ

ケーションを豊かにしていくことが重要と認識し、地域のさまざまな団体や自治体等との連携を深めるとともに、CSR活動の内容と進め方について社外有識者の方に専門的な見地からご意見を頂いています。

これからもさまざまなステークホルダーとの対話を通じて当社グループに対して社会が期待する役割を認識し、住友ゴムグループらしいCSR活動を推進していきます。

▶ 住友ゴムグループ CSR活動基本理念





CSRトピックス

タイ工場が3R推進協議会会長賞受賞

スミトモラバータイランド(株)は、リデュース・リユース・リサイクルに率先して取り組み顕著な実績を上げたとして、2009年10月23日、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会(略称:3R推進協議会)から会長賞を受賞しました。

スミトモラバータイランドは2006年11月に自動車タイヤの生産を開始し、2007年に「制度・ルール構築」に重点を置いた活動の一つとして廃棄物の置場管理、各工程で異なる分別方法の統一、リサイク

ル業者の監査・選定等に取り組みました。さまざまな活動により、2008年に83トンであった埋立廃棄物がゼロとなり、CO₂排出量も約1万1,000トンの削減ができ、ゴミ分別に伴う資源ゴミの売却益については、一定比率を地域へ寄付することとしています。他にも、回収した紙パックをボランティア団体に寄付したり、近隣休遊地に植樹するなど、地域の環境改善活動も活発に行っており、スミトモラバータイランドは、今後もこれらの活動を継続していきます。



地球環境保全の取り組みを推進する「エコ・ファースト推進協議会」を設立

住友ゴム工業(株)は、環境省が創設した「エコ・ファースト制度」に基づき、2009年3月、環境大臣に環境保全に対する当社グループの取り組みに関して「エコ・ファーストの約束」を行いました。同年12月9日に環境先進企業23社が「エコ・ファースト推進協議会」を設立し、さらにその活動を推進していくことを表明しました。「エコ・ファースト推進協議会」は、環境省よりエコ・ファースト企業として認定

を受けている23社が、環境大臣に個別に宣言している「エコ・ファーストの約束」の確実な実践と、先進性・独自性に富む環境保全活動の強化等を推進し、環境保全の取り組みを中断無く前進させるとともに環境行政との連携およびエコ・ファースト企業間の連携を強化することで、「エコ・ファースト制度」の発展を目指すものです。



加古川工場が地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞

加古川工場の「温暖化ガスの大幅削減と環境保全活動の取り組み」が、「平成21年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞しました。

「加古川工場環境方針」のもと、工場長をトップとした工場環境管理委員会を組織し、環境保全活動に努力し、2006年から2008年の3年間で二酸化炭素総排出量を49%、二酸化炭素排出量原単位でも

55%と大きく削減しました。また、有機溶剤・産業廃棄物・工業用排水量削減等についても大きな成果を上げました。これら成果が認められ、今回の表彰となりました。

同工場はまた、エネルギー管理優良の表彰を受けるとともに、異業種でのエネルギー普及改善にも貢献しています。



当社グループのCSR活動の詳細につきましては、「CSR報告書」をご覧ください。
当社グループのホームページ「CSRの取り組み」のページにも掲載しています。

<http://www.srigroup.co.jp/csr/index.html>



100万本の郷土の森づくりプロジェクトを推進

住友ゴムグループは、CSR活動基本理念のガイドラインの一つに「Green」(緑化)を掲げて、国内外の拠点や周辺地域の緑化活動を推進しています。

2009年は、創業100周年を機にさらに既存の緑化活動を拡大し、今後20年間で100万本の木を植える「100万本の郷土の森づくり」プロジェクトを開始しました。中でも、低燃費タイヤ「ENASAVE(エナセー

ブ)シリーズ」のタイヤを1セット(4本)ご購入いただくことで、お客さまに代わってマングローブの苗木を1本植樹する「Team ENASAVE」キャンペーンでは、タイに137,424本のマングローブの苗木を植樹することができました。「100万本の郷土の森づくり」プロジェクトは、全世界の事業所やその所在地で当初の計画を上回るペースで実施しています。

▶ 100万本計画の進捗 (本)

	2009年実績	2029年目標
どんぐりプロジェクト	23,265	400,000
マングローブ	137,424	330,000
国内事業所緑化	14,749	200,000
海外事業所緑化	31,226	70,000
合計	206,664	1,000,000

第1回 CSR 表彰を実施

住友ゴムグループは、職場や個人が取り組んだCSR活動の成果を表彰することでCSR活動への理解と関心を深め、活動を拡大することを目的として、CSR表彰制度を創設しました。

表彰対象は住友ゴムグループ各社・職場および全従業員で、「環境貢献部門」と「社会貢献部門」の2部門それぞれについて「職場の部」と「個人の部」を設け、自薦他薦を問わず広くグループ全体のCSR活動

の掘り起こしを行いました。

活動の継続性や効果等厳正な選考基準に基づき、最優秀賞5件、優秀賞6件、奨励賞9件を決定し、2009年12月に実施した表彰式では、最優秀賞と優秀賞の表彰を行い、職場の部は代表者が、個人の部は受賞者が当社社長からの表彰を受けました。

CSR表彰は、今後も継続して実施していきます。



「企業・NPO 協働奨励事業」奨励賞受賞

住友ゴム工業(株)は、特定非営利活動法人市民活動センター神戸と共に、2009年12月、兵庫県から「企業・NPO 協働奨励事業」奨励賞を受賞しました。これは、当団体との2008年からの継続的な対話・協働の成果が評価されたものです。2008年はタイヤテクニカルセンター新設に伴う余剰備品提供の事務

局や、ボランティア情報提供、ボランティア研修会の講師等をお願いしました。2009年は同ボランティア情報提供に加え、7月に当社が設立したCSR基金の立ち上げに際し、助成制度内容について意見交換を行うなど継続的に対話・協働を実施しています。



ステークホルダーダイアログ実施

住友ゴムグループのCSR活動についてステークホルダーとしての立場、専門的な見地から評価して頂くとともにご意見をちょうだいし、今後の活動の参考とするためにステークホルダーダイアログを実施しました。2009年12月には、消費者視点でのCSR活動の

あり方について社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会常任理事の古谷由紀子氏に、2010年1月には、CSR経営について一橋大学大学院商学研究科教授谷本寛治氏(写真右側)に、それぞれご意見を伺いました。

